

総会報告

第12回定時総会報告

日 時：令和4年3月22日(火)13時00分～14時30分
 会 場：オンライン開催（ホスト：RSI事務局会議室）
 出席代議員数：58名（内委任状21名）
 （代議員数総数：59名，総会成立の定数30名以上）

議 案：

- | | |
|---------------|---------|
| (1) 令和3年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 令和3年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 令和4年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 令和4年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 令和4年度役員の内 | 【第3号議案】 |
| (6) 名誉会員推挙の内 | 【第4号議案】 |

議 事：

午後1時00分，定款第15号に基づき村上弘記会長が議長となり，出席者が定款17条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第12回定時総会の開会を宣した。

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第1号議案】

令和3年度 事業報告

（自 令和3年1月1日 至 令和3年12月31日）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事/学術講演会理事]

- ロボット教育セミナー
コロナ禍の影響で予定していた夏休みの開催は中止，引き続き開催を検討中。
- 学術講演会オープンフォーラム
第39回学術講演会（オンライン，2021年9月8日(水)～11日(土)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を12件企画。

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第4条2号）

学会誌第39巻1号～10号を発行し，会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|---------|-------------------------|
| 第39巻1号 | ロボットと哲学：哲学的観点から見たロボット研究 |
| 第39巻2号 | NEDO 先導研究プログラム |
| 第39巻3号 | 手術ロボットの社会実装 |
| 第39巻4号 | 3D プリンティングとロボティクス |
| 第39巻5号 | ロボットと言語 |
| 第39巻6号 | 極限作業ロボット |
| 第39巻7号 | 強化学習最先端とロボティクス |
| 第39巻8号 | ERATO 稲見自在化身プロジェクト |
| 第39巻9号 | ワイヤ機構とロボティクス |
| 第39巻10号 | 収穫ロボット |

これまで投稿論文は四つのカテゴリに分けて査読していたが，哲学や心理学といったロボットにかかわる幅広い話題を扱えるように，2021年度から新たに「人文社会」というカテゴリを追加した。また，このカテゴリの論文を募集し，これらの論文を集めた特集号を，第40巻2号掲載予定で準備を進めている。学生編集委員会では，コロナ禍という制限がある中で，会社訪問やWorld Robot Summit優勝チームへのインタビューなど活発に活動した。また，2021年度から新しく東海チームを発足させ，活動の幅を広げている。

一般投稿論文については，年間の論文投稿件数は101件（2020年度132件，2019年度44件），判定結果は採録可61%（2020年度48%，2019年度63%）であった。判定までの期間は平均128日（2020年度99日），最短30日，最長345日で，掲載までの期間は平均330日（2020年度251日）であった。なお，評価項目の割合は，新規性33%（2020年度44%），有用性49%（同39%），提案性18%（同17%）となっている。

学術講演会と連動したレター同時投稿について，2021年度の投稿件数は66件（2020年度は82件）だった。レター同時投稿を受付開始した昨年よりも投稿数はやや減少したものの，年間投稿論文の約65%がレター投稿であり，来年度以降も投稿が期待できることが分かった。2020年度は学術講演会の座長に査読を引き受けてもらうことが多かったが，2021年度は論文査読小委員会の委員が査読委員になり査読者の選定を行った。昨年より判定までの期間が約1ヶ月長くなったことの影響性も含め，それぞれの利点欠点を精査し，2022年度の投稿に向けて準備したいと考えている。

また，「論文の採択通知が届いてから，実際に掲載されるまでの期間が長い」という投稿者からの指摘を受け，2021年度から採択論文の早期公開サービスを開始した。具体的には，採択が決定した論文の著者最終原稿を，著者の了解を得た上で，著者の責任の下で学会Webサイトに早期公開するサービスであり，第39巻9号から運用している。なお，正式版がJ-STAGEへ掲載されると，リンク先はJ-STAGEに切り替えている。

最後に，広告の年度集計結果に関しては，件数は52件（2020年度60件），金額は4,596,196円（2020年度6,027,264円）だった。コロナ禍ということもあり昨年に比べて広告収入が厳しい状況ではあるが，年間目標金額である400万円を超えることができた。

III. 欧文誌（継続事業3）[担当：欧文誌理事]（定款第4条2号）

Editor in Chiefを細田耕教授（大阪大学）が担当し，Advanced Roboticsの安定した発展を維持させつつ，時流に即した新しい取り組みを行っている。

1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

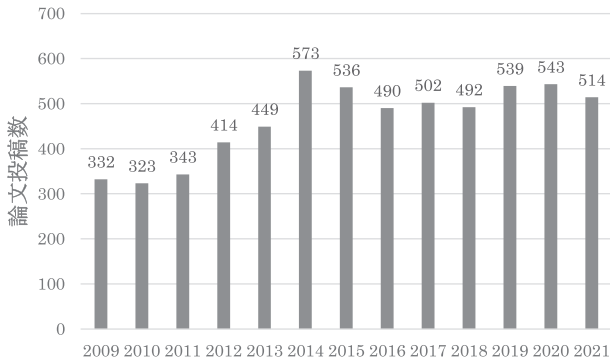
Vol.35を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

- | | | | |
|----------|------|---|--------------------------|
| 35/1 | 2021 | Jan | Regular Issue (5 papers) |
| 35/2 | Jan | Regular Issue (4 papers) | |
| 35/3-4 | Feb | Intelligent Autonomous Systems (11 papers) | |
| 35/5 | Mar | Embodied Haptic Technology for Human Augmentation (5papers) | |
| 35/6 | Mar | Regular Issue (5 papers) | |
| 35/7 | Apr | Cyborg and Bionic System III (6 papers) | |
| 35/8 | Apr | Regular Issue (4 papers) | |
| 35/9 | May | Ethics, Law and Psychology towards Responsible Robotics for the Society (5 papers) | |
| 35/10 | May | Regular Issue (5 papers) | |
| 35/11 | Jun | Extra SI on Soft/Social/Systemic (SS) Robot Technologies for enhancing Quality of New Normal (QoNX) (10 papers) | |
| 35/12 | Jun | Regular Issue (4 papers) | |
| 35/13-14 | Jul | Hyper-Adaptability for Overcoming Body-Brain Disfunction | |
| 35/15-16 | Aug | Robot and Human Interactive Communication 2021 (4 papers) | |
| 35/18 | Sep | Regular Issue (4 papers) | |
| 35/19 | Oct | Robot and Human Interactive Communication 2021 (4 papers) | |
| 35/20 | Oct | Regular Issue (4 papers) | |
| 35/21-22 | Nov | AI, Robotics and Automation in Space (9 papers) | |
| 35/23 | Dec | Advanced Construction Robot System (7 papers) | |
| 35/24 | Dec | Regular Issue (4 papers) | |

2. 論文の投稿，査読の状況

2021年における年間論文投稿総数は514件（新規投稿論文・366件，再投稿論文・148件）であった（下表参照）。数年にわたって，論文投稿総数は500件程度で安定している状況である。近年，Editorリジェクトを積極的に実施することで，質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っており，また全投稿論文に対してCrossCheckTM softwareが活用され，剽窃の事前チェックを行っている。

なお，2021年度の投稿から1回目のデシジョンまでの期間は平均で43.1日であった（2020年度は53.47,2019年度は62.18日，2018年度は76.03日，2017年度は68.56日，2016年度は61.57日，2015年度は66.7日）。これまで90日を目標にしているが，SchlorOneの導入の効果もあり目標を7年以上連続で達成している。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため，投稿から最終デシジョンまでの平均日数は79.83日となっている。2021年度の投稿論文の採択率は，28.53%であった。今後も査読期間の短縮に努めていく。

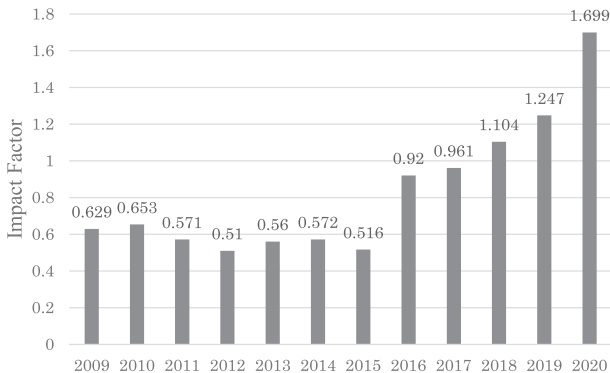


3. 企画/編集/発行作業

今年度は、ポストコロナ社会でのロボットの役割を議論する特集号を組むなど、時代に即した内容を計画していくとともに、Best Paper Awards 表彰において Best Survey Paper Award を創設して表彰することで、よりよい Survey Paper の投稿を促していこうと考えている。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。2016 年にてインパクトファクタが 0.920 に大幅に上昇し、その後の継続的に上昇し 2018 年においては 1.104 と、初めて 1.0 を上回る値を達成した。さらに 2020 年のインパクトファクタは 1.699 に大きく向上した。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して、戦略的に上昇させることを検討する一方、インパクトファクタだけでは表せない雑誌の国際的な評価をどのように上げていくかを検討していく必要がある。また、IROS での Best Paper Awards の表彰も検討しており、In-parson での会議が復活した際には実現に向けて動いていく予定である。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約内容の更新・交渉

以下のような契約内容(2020 年度の契約内容と同じ)で更新を行った。2021 年 (Vol. 35) 年間発行数: 24 号

1. 会員全員の電子購読料金 15,000 ユーロ/年
2. RSJ へ支払われる編集料 20,000 ユーロ/年
3. AR ベストペーパー賞金 1,000 ユーロ/年

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ 1 ヶ月以内で対応可能である。

6. その他

2022 年 4 月より Editor in Chief を倉林大輔教授 (東京工業大学) が担当する。

IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画・広報理事] (定款第 4 条 3 号)

前年度から継続して、以下の調査・研究専門委員会活動を実施した。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	横田 諭	2021 年 4 月	I 種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020 年 4 月	I 種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅 久	2020 年 4 月	I 種

遊びとロボット研究専門委員会	望山 洋	2017 年 5 月	I 種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017 年 4 月	I 種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017 年 4 月	I 種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017 年 4 月	II 種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014 年 8 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	荒田純平	2008 年 4 月	I 種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008 年 4 月	I 種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007 年 1 月	II 種

※ヒューロビント研究専門委員会(委員長: 横田 諭)は 2021 年 3 月末にて活動を終了した。

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020 年 9 月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020 年 1 月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015 年 1 月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013 年 5 月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013 年 1 月

(3) 技術・カテゴリー別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015 年 4 月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013 年 10 月

(4) 研究協議会

研究協議会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行った。

V. 表彰 (継続事業 5) [担当: 企画・広報理事] (定款第 4 条 4 号)

2021 年 9 月第 39 回学術講演会において、学会誌論文賞 4 件、Advanced Robotics Paper Awards 3 件、優秀研究・技術賞 6 件、優秀講演賞 5 件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞 2 件、ロボティクスシンポジウム優秀研究・技術賞 1 件、International Session Best Presentation Award 3 件、ロボット活用社会貢献賞 1 件、功労賞 1 件、研究奨励賞 5 件の表彰を行う。なお、実用化技術賞は本年度該当無しとなった。また、2021 年 3 月末に優秀学生賞を 34 人に授与した。各賞に授与される賞状賞牌について今年度より見直しを行っている。

1. 学会誌論文賞

- (1) 特異点における角軸ベクトルの計算法と拡張角軸ベクトルの提案 (日本ロボット学会誌第 37 巻第 8 号, pp.726-734) 関口毅範 (東京都立大学), 武居直行 (東京都立大学)
- (2) ロボットの長期間活動のための地図結合 (日本ロボット学会誌第 37 巻第 9 号, pp.864-872) 友納正裕 (千葉工業大学)
- (3) 小惑星探査ローバ MINERVA-II による工学実験 (日本ロボット学会誌第 38 巻第 8 号, pp.754-761) 吉光徹雄 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所), 久保田孝 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)
- (4) 関節駆動力とフレーム剛性に基づく大出力ヒューマノイド JAXON3-P の軽量化設計法と跳躍動作の実現 (日本ロボット学会誌第 38 巻第 10 号, pp.975-984) 小島邦生 (東京大学), 小椎尾侑多 (東京大学), 石川達矢 (東京大学), 菅井文仁 (東京大学), 垣内洋平 (東京大学), 岡田慧 (東京大学), 稲葉雅幸 (東京大学)

2. Advanced Robotics Paper Awards

2-1 Advanced Robotics Best Paper Award

- (1) Loop detection for 3D LiDAR SLAM using segment-group

- matching
(Advanced Robotics Vol. 34 No. 23, pp. 1530-1544)
Masahiro Tomono (Chiba Institute of Technology)
- 2-2 Advanced Robotics Best Survey Paper Award
(1) Survey on frontiers of language and robotics
(Advanced Robotics Vol. 33 No. 15, 16, pp. 700-730)
Tadahiro Taniguchi (Ritsumeikan University), Daichi Mochi-
hashi (The Institute of Statistical Mathematics), Takayuki
Nagai (Osaka University), Satoru Uchida (Kyushu Universi-
ty), Naoya Inoue (Tohoku University), Ichiro Kobayashi (Och-
anomizu University), Tomoaki Nakamura (The University of
Electro-Communications), Yoshinobu Hagiwara (Ritsumeikan
University), Naoto Iwahashi (Okayama Prefectural Universi-
ty), Tetsunari Inamura (The Graduate University for Adv-
anced Studies), Kei Okada (The University of Tokyo), Ma-
sayuki Inaba (The University of Tokyo)
- 2-3 Advanced Robotics Excellent Paper Award
(1) Assisted teleoperation in changing environments with a mix-
ture of virtual guides
(Advanced Robotics Vol. 34 No. 18, pp. 1157-1170)
Marco Ewerton (Technische Universität Darmstadt), Oleg
Arenz (Technische Universität Darmstadt), Jan Peters (Tech-
nische Universität Darmstadt)
3. 実用化技術賞 受賞該当者なし
4. 優秀研究・技術賞
(1) 藤城俊希 (名古屋大学), 青山忠義 (名古屋大学/JST さきがけ),
梶野一輝 (岐阜大学), 高須正規 (岐阜大学), 竹内 大 (名古屋
大学), 長谷川泰久 (名古屋大学)
実時間3次元画像表示により奥行き方向の視認性を向上させる
マイクロマニピュレーションシステム
(第38回日本ロボット学会学術講演会/2I3-08)
(2) 濱田 萌 (東京工業大学), 北村光司 (産業技術総合研究所),
西田佳史 (東京工業大学, 産業技術総合研究所)
手すり型力センサを用いた高齢者の階段の日常昇降特性のアン
ビエントな理解
(第38回日本ロボット学会学術講演会/3H2-03)
(3) 小島邦生 (東京大学), 小椎尾侑多 (東京大学), 菅井文仁 (東
京大学), 垣内洋平 (東京大学), 岡田 慧 (東京大学), 稲葉雅
幸 (東京大学)
衝撃緩和と力応答のためのヒューマノイド JAXON3-P の駆動系
設計法と動的接触動作の実現
(第38回日本ロボット学会学術講演会/2G2-07)
(4) 小澤 悠 (東北大学), 渡辺将広 (東北大学), 多田隈建二郎 (東
北大学), 高根英里 (東北大学), 田所 論 (東北大学)
弾性履帯の形状適応により高踏破性を可能とする移動メカニズム
(第38回日本ロボット学会学術講演会/3C2-02)
(5) 高橋知也 (東北大学), 渡辺将広 (東北大学), 高根英里 (東北
大学), 多田隈建二郎 (東北大学), 昆陽雅司 (東北大学), 田所
論 (東北大学)
非密閉式水圧駆動トラス機構—先端能動首振りにより任意方
向操舵を可能とする長尺伸縮メカニズム—
(第38回日本ロボット学会学術講演会/2A3-06)
(6) 辻 俊明 (埼玉大学), 佐藤航陽 (埼玉大学), 境野 翔 (筑波
大学/JST さきがけ)
力覚情報のメル周波数ケプストラム係数に基づく接触動作の認識
(第38回日本ロボット学会学術講演会/3D1-04)
5. 優秀講演賞
(1) 桃井啓伍 (早稲田大学)
新生児蘇生法トレーニング・システムの開発—自発呼吸と陥没
呼吸の再現が可能な新生児シミュレータの設計・製作—
第38回日本ロボット学会学術講演会/1H1-06
(2) 森安竜大 (豊田中央研究所)
軌道の位相的性質を保証する非線形動的システム学習
第38回日本ロボット学会学術講演会/3D3-04
(3) 三木晴子 (大阪大学)
遠隔保育ロボットを用いた Toddler 層乳幼児の言語発達支援シ
ステムの提案
第38回日本ロボット学会学術講演会/2I2-04
(4) 中村建介 (関西学院大学)
起立支援の為の下肢外骨格アクチュエータレス機構の開発
第38回日本ロボット学会学術講演会/2H1-06
(5) 青木悠祐 (沼津工業高等専門学校)
ロボットのいる生活をテーマとする社会実装ロボット教育の実践
第38回日本ロボット学会学術講演会/2J3-02
6. 研究奨励賞
(1) 山口大介 (岡山大学)
圧電材料・空圧を駆動源とする極限環境用ロボット向けアクチュ
エータに関する研究
(2) 室岡貴之 (東京大学)
等身大ヒューマノイドにおける学習・幾何学的側面による道具
操作の実現
(3) 大石修士 (産業技術総合研究所)
パーソナルモビリティのための見えに基づく自己位置同定・自
律移動技術の開発
(4) 野崎貴裕 (慶應義塾大学)
電気系と機械系とのアナログに基づくロボットの運動生成とそ
の社会実装
(5) 大澤啓介 (九州大学)
ウォームギア機構を用いた自走式大腸内視鏡ロボットの開発
7. ロボティクスシンポジウム研究奨励賞
(1) 清水崇博 (東京大学)
パーソナルモビリティのための LIDAR の反射強度特性に依存
しない歩行者認識手法の提案
第26回ロボティクスシンポジウム/1C1
(2) 翠 健仁 (筑波大学)
アーチ型スナップモータのエネルギー計測
第26回ロボティクスシンポジウム/4C2
8. ロボティクスシンポジウム優秀研究・技術賞
(1) 衣川 潤 (東北大学), 鈴木裕貴 (日立建機株式会社), 寺山隼
矢 (東北大学), 小菅一弘 (東北大学)
把持安定性解析に基づく食器用劣駆動ロボットハンド
(第26回ロボティクスシンポジウム/4C3)
9. International Session Best Presentation Award
9-1 Winner
(1) Koen Hertenberg (Tohoku University)
Telepresence Robot System Operated by a Cycling Wheelchair
39th RSJ2021/2A2-02
- 9-2 Finalist
(1) Hao Chen (Osaka University)
Vision-Based Novel Object Grasping based on Object-Associ-
ation Matching with Grasp Database
39th RSJ2021/1A1-01
(2) Yan Wang (Osaka University)
An Adaptive LfD Framework for Complex Robotic Assembly
Tasks
39th RSJ2021/2A3-03
10. ロボット活用社会貢献賞
(1) 新型コロナウイルスのPCR自動検査ロボットシステム
川崎重工工業株式会社, 株式会社メディカロイド, シスメックス
株式会社
11. 功労賞
(1) 第25回ロボティクスシンポジウムのオンライン開催
第25回ロボティクスシンポジウム実行委員会
鈴木昭二 (公立はこだて未来大学), 梅谷智弘 (甲南大学), 大
原賢一 (名城大学), 加藤浩仁 (公立はこだて未来大学), 鳥
圭介 (横浜国立大学), 鈴木恵二 (公立はこだて未来大学), 鈴
木拓央 (愛知県立大学), 竹岡年延 (弘前大学), 富沢哲雄 (東
京工業高等専門学校), 中村尚彦 (函館工業高等専門学校), 中
村恭之 (和歌山大学), 前 泰志 (関西大学), 三上貞芳 (公立
はこだて未来大学)
12. 優秀学生賞
猪原拓朗 (岡山大学工学部機械システム系学科 (システム工学
コース))
濱野謙吾 (大阪大学工学部応用理工学科機械工学科目)

原田悠斗	(大阪大学基礎工学部システム科学科知能システム学 コース)
村上友希	(大阪大学：オンライン申請中)
北奥一希	(大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部ロボッ ト工学)
玉井敦也	(金沢大学理工学域機械工学科)
加藤匠哉	(岐阜大学工学部機械工学科)
森本祐生	(京都大学工学部物理工学科)
新田 峻	(近畿大学工学部ロボティクス学科)
木戸祐輔	(慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科)
堀越達哉	(工学院大学工学部機械システム工学科)
田中達也	(工学院大学情報学部システム数理学科)
田中 涼	(芝浦工業大学工学部電気工学科)
野口達矢	(千葉工業大学先進工学部未来ロボティクス学科)
戸田沙也香	(千葉工業大学先進工学部未来ロボティクス学科)
吉原大智	(筑波大学理工学群工学システム学類)
安藤啓介	(筑波大学理工学群工学システム学類)
磯邊皓介	(筑波大学理工学群工学システム学類)
山口晋史	(電気通信大学情報理工学域Ⅱ類(融合系))
圓道和奏	(東京大学工学部精密工学科)
本間勇樹	(東京工科大学工学部機械工学科)
薬谷真輝	(東京工業大学工学院機械系)
西尾広幸	(東京工業大学大学院システム制御系)
土手口直毅	(東京都立大学システムデザイン学部システムデザイン 学科知能機械システムコース)
豊原治也	(東洋大学理工学部機械工学科)
青木瑞穂	(名古屋大学工学部機械・航空宇宙工学科)
板場 倭	(日本工業大学工学部創造システム工学科 秋元研究室)
藤原朋之	(北海道大学工学部情報エレクトロニクス学科電気制御 システムコース)
小林和史	(名城大学理工学部メカトロニクス工学科)
小宮僚太郎	(山形大学工学部機械システム工学科)
中野風志	(横浜国立大学理工学部 機械・材料・海洋系学科 機械 工学教育プログラム)
柴田和寿	(立命館大学理工学部ロボティクス学科)
金谷由佳	(和歌山大学 システム工学部システム工学科 機械電子 制御メジャー)
高橋慶伸	(早稲田大学創造理工学部総合機械工学科)

VI. 国際(継続事業6) [担当：国際理事] (定款第4条5号)

1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にしてRSJの国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
- ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
- ・Pacific-Asia Robotics Society Union (PARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の三つを柱に活動を行った。

2. 第39回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

これまでと同様に、日本ロボット学会学術講演会において、国際セッションを実施した。国際セッションでは、セッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる。発表者には、日本に滞在する留学生、研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を海外の研究者、技術者に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、このような場を提供する意義は大きい。今年度の第39回日本ロボット学会学術講演会においては、

- ・IS1: Human and Robot 11件
- ・IS2: AI, Learning and Control 6件
- ・IS3: Robotics and Manipulation 8件(合計25件)

の三つのトピックでの論文が五つの時間帯(スロット)で発表された。2012～2020年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件、31件、14件となっている。COVID-19の影響に

よるオンライン開催が継続されているが、昨年より10件ほど多くの投稿があった。例年と比較した場合では平均的な投稿数であった。国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど一層の改善が必要と考える。また、2019年から引き続き、国際セッションでの優秀な発表を対象にした賞(International Session Best Presentation Award)1件の授与と、Finalist 2件の授与を行った。また本年度はこれに加え、学会誌理事、欧文誌理事と共同でOpen Forumを企画し、研究を論文にまとめる意義をその技術、国際会議出席の価値について議論する場を設け、木野仁先生(中京大)、山本江先生(東大)にそれぞれご講演いただき、パネルディスカッションを行った。

3. 国際交流活動

(3-1) 引き続きPARSUの活動方針、PARSUメンバーに向けたRSJの貢献の仕方について議論する。

(3-2) これまでのPARSUサミット会議での合意事項の推進

- ・PARSU ホームページ (<http://www.asian-robotics.org/>) の更新と研究成果情報の共有

●HP更新

○名称をARSU(パシフィックが無い状態)からPARSUに変更

○第14回ARSUサミット会議の開催報告

- コンテンツの充実化、タイムリーな情報更新をはかる(議事録、各学会の主催する国際学会へのリンクなど)

(3-3) インドTRSとの活動

- ・AIR2021国際会議(インドTRS主催)の一環としてRSJ-TRS共同ワークショップを開催した。

4. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

(1) 30th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2021)

期間：2021年8月8日～8月12日、オンライン開催

期間中にステアリング会議が開催され、ロボット学会からは会長、国際担当理事2名、事務局長1名が出席し、スポンサー学会の体制や今後の開催計画などを確認した。また本会議では、RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの授与を行った。またこれまでKROSと合同で行っていたRSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardの贈賞についてはKROSとの協議の結果、今後はRSJとKROSが独立して贈賞することとなった。RSJが贈賞する賞名は「RSJ Pioneering Research Award in Robot and Human Interactive Communication」である。

(2) 2021 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2021)

期間：2021年9月27日～2021年10月1日、オンデマンド・オンライン開催

9月26日、IROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され、RSJからは会長1名、副会長1名、国際担当理事3名、事務局長1名が参加し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。

- IROS2021は、オンデマンドかつオンラインのハイブリッド開催となったが、京都で開催される。IROS2022は対面開催を前提として、オンラインとのハイブリッドも視野に入れた準備を行うことが説明された。コロナ禍が長引く中、引き続きIROSの在り方を議論していく。またIROS35周年特別記念行事への企画にSICEと協力して取り組むこととなった。

- IROS2020決算、IROS2021予算、京都で開催されるIROS2022予算について報告・議論があった。

今後も継続して、IROSでの当学会の存在感を根付かせることを目標に、Advisory/Steering Committee Meetingへの継続的な参加を図る。

5. 英文誌特集号企画への参画

本年度も引き続きコロナ禍で国際的な活動が制限される状況が続いた。そうした中で国際的活動として、昨年度に引き続き英文誌特集号企画への参画を予定している。具体的には、Advanced Robotics誌において“RO-MAN2022特集号”の企画および参画を予定している。

6. 国際会議共催／協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議を共催(3件)、協賛(10件)した(2021年1月～12月31日審査分)。

VII. 学術講演会(その他事業1)[担当:学術講演会理事](定款第4条1号)

1. 学術講演会

(1) 第39回学術講演会

期日:2021年9月8日(水)～11日(土)

会場:オンライン開催

実行委員長:山崎公俊(信州大学)

実行副委員長:河村 隆(信州大学)

プログラム委員長:市川純章(諏訪東京理科大学)

【発表件数:481件】

一般セッション:31テーマ

オーガナイズドセッション:18テーマ

International Session:3テーマ

スポンサー企業:9件(ダイヤモンド:3件, シルバー6件)

【特別企画】

(1) 総合講演:「ロボットに対する倫理の根本 一地によって倒れる者は、必ず地によって起きる」

演者:森 政弘氏 日本ロボット学会名誉会長

(2) 特別講演:「Human Support Robotの共創的研究」

講演者:山本貴史氏 トヨタ自動車株式会社未来創生センターR-フロンティア部 主査

(3) トークセッション:ロボット技術をユーザーに届ける～研究から事業化まで～

話題提供:田中章愛様 ソニー・インタラクティブエンタテインメント toio 事業推進室 課長
大島 章様 株式会社 Doog 代表取締役

(4) オンライン企業見学会

セイコーエプソン株式会社のオンライン企業見学会

【参加者数:1,025名】

正会員/終身会員(事前):340名,(当日):123名

学生会員(事前):126名,(当日):8名

協賛後援団体一般会員(事前):43名,(当日):11名

協賛後援団体学生会員(事前):49名

一般非会員(事前):55名,(当日):24名

学生非会員(事前):219名,(当日):4名

優待券利用の賛助会員(事前):15名,(当日):2名

優待券非利用の賛助会員(事前):3名,(当日):3名

VIII. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

1. ロボット工学セミナー

コロナ禍の影響を鑑み、本年度は全セミナーをオンラインでの開催とした。

(1) 第131回セミナー

「ロボットの作り方～移動ロボットの基本とROSによるナビゲーション実習～」

期日:2021年1月23日(土)・24日(日) オンライン開催

講師:原 祥亮(千葉工業大学), 上田隆一(千葉工業大学)

オーガナイザー:池 勇勲(北陸先端科学技術大学院大学), ラミレス イクシエル(産総研)

参加者:44名(会員・協賛12名, 学生会員・協賛6名, 会員外:8名, 会員外学生:14名, 賛助優待:4名)

(2) 第132回セミナー「視覚と言葉を通じたロボットとの共同作業を目指して」

期日:2021年2月17日(水) オンライン開催

講師:山下隆義(中部大学), 高道慎之介(東京大学) 西田京介(NTT), 吉野幸一郎(理化学研究所)

オーガナイザー:牛久祥孝(OSX/Ridge-i)

参加者:99名(会員・協賛54名, 学生会員・協賛5名, 会員外:22名, 会員外学生:8名, 賛助優待:2名, 賛助招待:8名)

(3) 第133回セミナー「こんなときこそ、ロボット—ポスト・コロナ社会で活躍するロボットと人とのリレーションシップ」

期日:2021年4月27日(火) オンライン開催

講師:堂前幸康(産総研), 笠置泰孝(ZMP), 福田和人(JR 東日本), 松田次博(情報化研究会・元 NEC)

オーガナイザー:廣川潤子(東芝)

参加者:48名(会員・協賛23名, 学生会員・協賛:3名, 会員外:12名, 会員外学生:1名, 賛助優待:2名, 賛助招待:7名)

(4) 第134回セミナー「ロボットのための画像処理技術」

期日:2021年5月18日(火) オンライン開催

講師:奥 寛雅(群馬大学), 紋野雄介(東京工業大学), 宮崎大輔(広島市立大学), 向川康博(奈良先端科学技術大学院大学)

オーガナイザー:竹村憲太郎(東海大学)

参加者:88名(会員・協賛42名, 学生会員・協賛:8名, 会員外:22名, 会員外学生:3名, 賛助優待:4名, 賛助招待:9名)

(5) 第135回セミナー「スポーツとロボット技術」

期日:2021年7月2日(金) オンライン開催

講師:浅田 稔(大阪大学), 妹尾 拓(広島大学), 浅井恭平(オムロン), 中島 求(東京工業大学), 稲見昌彦(東京大学), 佐藤卓也(富士通)

オーガナイザー:西川 鋭(九州大学)

参加者:49名(会員・協賛25名, 学生会員・協賛:5名, 会員外:9名, 会員外学生:3名, 賛助優待:3名, 賛助招待:1名, 講師招待:3名)

(6) 第136回セミナー「組立動作の自動制御技術」

期日:2021年9月1日(水) オンライン開催

講師:原田研介(大阪大学), 小山佳祐(大阪大学), 境野 翔(筑波大学), 高橋城志(Preferred Networks), 濱屋政志(OSX)

オーガナイザー:沖 賢太郎(オムロン)

参加者:87名(会員・協賛48名, 学生会員・協賛:4名, 会員外:16名, 会員外学生:5名, 賛助優待:5名, 賛助招待:9名)

(7) 第137回セミナー「サービスロボットと安全性—医療福祉分野—」

期日:2021年10月20日(水) オンライン開催

講師:北辻博明(メディカロイド), 山中 太(安川電機), 安永好宏(CYBERDYNE), 北河博康(MOGITATe), 柴田崇徳(産総研)

オーガナイザー:打田正樹(鈴鹿工業高等専門学校)

参加者:48名(会員・協賛31名, 学生会員・協賛:6名, 会員外:4名, 会員外学生:2名, 賛助優待:2名, 賛助招待:3名)

(8) 第138回セミナー「インフラ維持管理とロボット技術」

期日:2021年11月12日(金) オンライン開催

講師:和田秀樹(新日本非破壊検査), 渡辺 豊(ルーチェサーチ), 毛利茂則(ジビル調査設計), 大野和則(東北大学), 広瀬茂男(白山工業)

オーガナイザー:工藤 拓(富士通)

参加者:46名(会員・協賛21名, 学生会員・協賛:8名, 会員外:5名, 会員外学生:3名, 賛助優待:4名, 賛助招待:5名)

2. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。共催4件, 協賛72件, 後援19件(2021年1月1日～12月31日審査分)

主な国内共催事業:

- (1) 第26回ロボティクスシンポジウム(2021年3月16日(火)～17日(水))
- (2) ロボカップジャパンオープン2021→中止
- (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2021→中止
- (4) レスキューロボットコンテスト20×21(2021年8月7日～8月8日)
- (5) つくばチャレンジ2021(2021年9月23日～2022年1月8日)

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 会員状況

	令和3年12月31日 現在	令和2年12月31日 現在	増 減
名誉会員	9名	10名	1名減
正会員	2,821名	2,890名	69名減
学生会員 A	186名	245名	59名減
学生会員 B	489名	512名	23名減
終身会員	159名	151名	8名増
会員総数	3,664名	3,808名	144名減
賛助会員	100団体(121口)	101団体(123口)	1団体減(2口減)

2. 総会

(1) 第11回定時総会

会期：令和3年3月23日(火)

会場：日本ロボット学会事務局会議室（オンライン併催）

出席代議員数：58名（うち委任状提出：12名）

（代議員総数：59名、総会成立の定数30名以上、
議題の可決に必要な出席代議員数40名以上）

議題：令和2年度の事業報告・決算報告、令和3年度の事業計画・
予算計画、令和3年度役員を選任、名誉会員の選出、会
員除名、以上について審議し、議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月)
会誌編集委員会	永谷圭司	大川一也
欧文誌委員会	武居直行	下田真吾
事業計画委員会	新妻実保子	島 圭介
国際委員会	田中文英	ベンチャー ジェンチャン
研究協議会	松野文俊	橋本浩一
学術講演会実行委員会	浅田 稔 (38回)	山崎公俊 (39回)
表彰委員会	村上弘記	菅野重樹
学会誌論文賞選考小委員会	松野文俊	橋本浩一
Advanced Robotics Best Paper Award 選考 小委員会	村上弘記	菅野重樹
実用化技術賞選考小委員会	村上弘記	菅野重樹
研究奨励賞選考小委員会		橋本浩一
功労賞選考小委員会	村上弘記	菅野重樹
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	松野文俊	橋本浩一
学術講演会関連賞選考小委員会	村上弘記	橋本浩一
ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委 員会	村上弘記	橋本浩一
外部表彰選考小委員会	松野文俊	菅野重樹
体制整備委員会	浅田 稔	村上弘記
アドバイザーボード	浅田 稔	村上弘記
コンプライアンス委員会	浅田 稔	村上弘記
情報システム管理委員会	蓮沼仁志	服部 誠
学術講演会運営委員会	村上弘記	菅野重樹
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	岡田 聡	植木美和
学会価値委員会	浅田 稔	村上弘記

4. 役員の選出

令和3年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会、理事会

(1) コロナ禍の影響を鑑み、本年度は運営報告会の開催を見送り、
会務報告をオンライン公開とした。

(2) 令和3年度中に10回の理事会を開催し、会務の審理と処理を
行った。

6. フェローの選任

6名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

今年度も、理事会・各種委員会で、個人会員および賛助会員の増大
を目指し、各種改善施策の推進・実施に努めたが、個人会員および賛
助会員数ともに減少となった。会員数の増強に関しては、引き続き努
力中であり、継続が必要である。特に女性会員の比率が低く、短期的
な対策だけでなく中長期的な視点で改善を図るため、ジェンダー対策
WGを新たに設置し、検討を開始した。

COVID-19の影響により、昨年に引き続き事業がオンライン開催と
なったが、ノウハウや知見の蓄積・共有により円滑に事業を継続する
ことができた。今後の感染状況は未だ不透明ではあるが、オンライン
ツール等を活用し、基盤強化、事業拡大に向けて活動を強化する。

8. 学会の社会的価値・サービスの向上

COVID-19の影響下で、第39回学術講演会を昨年に引き続き完全オ
ンラインで実施、昨年度と同等の参加者数、収益となり成功させるこ
とができた。この中で、発表の見逃し配信を新たに実施し、好評を得た。

産学連携委員会では、FA・ロボットシステムインテグレート協会
(SIer協会)と連携し、学生へのSIer認知度向上の一環として、学会
HPに連載記事の掲載を開始した。

HP編集委員会では、学会HP「ロボ學」を活用した情報発信を活発
に実施した。学生編集委員会による学術講演会レポートや企業インタ
ビュー、各研究専門委員会による活動報告、解説記事や寄稿の掲載など、
頻繁に更新を実施。今後も多様なコンテンツの充実を進める。

新事業・財務改革検討WGでは、ロボット工学セミナーのオンデマ
ンド配信化などのサービス向上策を検討中である。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当：庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

【第2号議案】

令和3年度 決算報告

貸借対照表
令和3年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	249,378,522	245,407,851	3,970,671
現金	4,002,276	3,715,141	287,135
普通預金	103,742,186	100,226,451	3,515,735
振替口座	7,135,259	6,973,801	161,458
通常貯金	989,537	989,529	8
定期預金	133,509,264	133,502,929	6,335
未収会費	1,644,000	1,844,400	△ 200,400
未収金	2,953,786	2,273,670	680,116
前払金	550,968	959,598	△ 408,630
立替金	36,300	36,300	0
仮払金	6,504,265	6,634,837	△ 130,572
流動資産合計	261,067,841	257,156,656	3,911,185
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	15,246,311	14,149,726	1,096,585
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定資産合計	36,246,311	35,149,726	1,096,585
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	38,962,411	37,865,826	1,096,585
資産合計	300,030,252	295,022,482	5,007,770
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	404,293	1,784,284	△ 1,379,991
前受会費	21,374,000	20,498,000	876,000
前受金	669,500	366,400	303,100
前受入金	2,000	3,000	△ 1,000
預り金	1,017,130	790,857	226,273
仮受金	3,758,725	3,865,337	△ 106,612
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	27,295,648	27,377,878	△ 82,230
2. 固定負債			
退職給付引当金	15,246,311	14,149,726	1,096,585
固定負債合計	15,246,311	14,149,726	1,096,585
負債合計	42,541,959	41,527,604	1,014,355
III 正味財産の部			
一般正味財産	257,488,293	253,494,878	3,993,415
(うち特定資産への充当額)	(21,000,000)	(21,000,000)	(0)
正味財産合計	257,488,293	253,494,878	3,993,415
負債及び正味財産合計	300,030,252	295,022,482	5,007,770

貸借対照表内訳表
令和3年12月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	3,704,265		245,674,257		249,378,522
未収会費			1,644,000		1,644,000
未収金			2,953,786		2,953,786
前払金			550,968		550,968
立替金			36,300		36,300
仮払金			6,504,265	3,704,265	2,800,000
流動資産合計	3,704,265	0	257,363,576	3,704,265	257,363,576
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	10,917,206	393,262	3,935,843		15,246,311
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	10,917,206	393,262	24,935,843	0	36,246,311
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	10,993,470	418,467	27,550,474	0	38,962,411
資産合計	14,697,735	418,467	284,914,050	3,704,265	296,325,987
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			404,293		404,293
前受会費			21,374,000		21,374,000
前受金			669,500		669,500
前受入金			2,000		2,000
預り金			1,017,130		1,017,130
仮受金	3,704,265		54,460	3,704,265	54,460
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	3,704,265	0	23,591,383	3,704,265	23,591,383
2. 固定負債					
退職給付引当金	10,917,206	393,262	3,935,843		15,246,311
固定負債合計	10,917,206	393,262	3,935,843	0	15,246,311
負債合計	14,621,471	393,262	27,527,226	3,704,265	38,837,694
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	257,488,293	0	257,488,293
正味財産合計	0	0	257,488,293	0	257,488,293
負債及び正味財産合計	14,697,735	418,467	284,914,050	3,704,265	296,325,987

正味財産増減計算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	119	109	10
② 受取入金			
正会員受取入金	74,000	75,000	△ 1,000
学生会員受取入金	74,000	75,000	△ 1,000
学生会員受取入金	0	0	0
③ 受取会費			
正会員受取会費	40,297,200	41,204,400	△ 907,200
学生会員受取会費	28,510,000	28,910,000	△ 400,000
学生会員受取会費	1,787,200	1,974,400	△ 187,200
賛助会員受取会費	10,000,000	10,320,000	△ 320,000
④ 事業収益			
参加費事業収益	37,274,196	34,687,124	2,587,072
参加費事業収益	16,320,000	15,795,000	525,000
懇親会参加費事業収益	0	0	0
展示料事業収益	2,190,000	2,310,000	△ 120,000
講演概要集広告料事業収益	0	0	0
セミナー参加費事業収益	3,338,400	2,466,000	872,400
会誌掲載料事業収益	6,932,200	4,665,100	2,267,100
会誌広告料事業収益	4,717,196	5,681,324	△ 964,128
会誌頒布事業収益	1,267,200	1,395,500	△ 128,300
編集料事業収益	2,509,200	2,374,200	135,000
⑤ 受取補助金等			
受取国庫補助金	1,191,000	0	1,191,000
受取国庫補助金	0	0	0
受取地方公共団体助成金	1,191,000	0	1,191,000
受取民間補助金	0	0	0
⑥ 雑収益			
受取利息	2,993,528	12,092,787	△ 9,099,259
受取利息	7,528	13,887	△ 6,359
雑収益	2,986,000	12,078,900	△ 9,092,900
経常収益計	81,830,043	88,059,420	△ 6,229,377
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	50,349,944	52,474,423	△ 2,124,479
給料手当	10,374,464	10,208,738	165,726
臨時雇賃金	4,574,276	4,144,126	430,150
退職給付費用	794,894	791,400	3,494
福利厚生費	1,664,160	1,592,837	71,323
旅費交通費	24,570	400,472	△ 375,902
通信運搬費	4,420,492	4,041,418	379,074
消耗什器備品費	198,000	106,660	91,340
消耗品費	1,187,406	871,747	315,659
印刷製本費	14,767,647	13,400,416	1,367,231
賃借料	170,434	215,760	△ 45,326
諸謝金	1,770,893	2,223,037	△ 452,144
租税公課	583,300	2,076,600	△ 1,493,300
支払負担金	81,704	1,985,414	△ 1,903,710
委託費	8,303,968	8,199,920	104,048
雑費	1,433,736	2,215,878	△ 782,142
② 管理費			
給料手当	27,416,684	30,170,314	△ 2,753,630
給料手当	9,562,499	9,468,371	94,128
臨時雇賃金	0	239,475	△ 239,475
退職給付費用	301,691	282,501	19,190
福利厚生費	1,482,375	1,450,398	31,977
会議費	0	99,682	△ 99,682
旅費交通費	6,780	77,339	△ 70,559
通信運搬費	1,258,657	957,189	301,468
消耗什器備品費	198,590	708,840	△ 510,250
消耗品費	501,242	1,147,265	△ 646,023
修繕費	11,550	0	11,550
印刷製本費	692,169	512,892	179,277
光熱水料費	350,829	363,820	△ 12,991
賃借料	7,144,552	7,527,429	△ 382,877
保険料	0	6,000	△ 6,000
支払手数料	1,523,375	1,180,686	342,689

諸会費	342,477	342,269	208
諸謝金	929,280	1,110,820	△ 181,540
租税公課	45,050	66,900	△ 21,850
委託費	2,294,848	2,639,163	△ 344,315
雑費	770,720	1,989,275	△ 1,218,555
経常費用計	77,766,628	82,644,737	△ 4,878,109
評価損益等調整前当期経常増減額	4,063,415	5,414,683	△ 1,351,268
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,063,415	5,414,683	△ 1,351,268
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	4,063,415	5,414,683	△ 1,351,268
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	3,993,415	5,344,683	△ 1,351,268
一般正味財産期首残高	253,494,878	248,150,195	5,344,683
一般正味財産期末残高	257,488,293	253,494,878	3,993,415
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	257,488,293	253,494,878	3,993,415

正味財産増減計算書内訳表
令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入会金								
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事 業 収 益	0	12916396	2509200	0	0	0	0	15425796
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演費集約費事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		6932200						6932200
会誌広告料事業収益		4717196						4717196
会誌頒布事業収益		1267200						1267200
編集料事業収益			2509200					2509200
受 取 補 助 金 等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取民間補助金								
受 取 寄 付 金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経常収益計	0	12916396	2509200	0	0	0	0	15425796
(2) 経常費用								
事 業 費	314994	26194921	3395964	684845	6693661	100423	0	37384808
給 料 手 当		5356251			4286989			9643240
臨 時 雇 賃 金	65200	29770						94970
退職給付費用		424731			339493			764724
福 利 厚 生 費		865578			684655			1550233
旅 費 交 通 費		24070		500				24570
通 信 運 搬 費	56560	3549464		93553	35300	44495		3779372
消 耗 什 器 備 品 費				198000				198000
消 耗 品 費	965	12980	53960					67905
印 刷 製 本 費		12792322			15180			12807502
賃 借 料	17043							17043
諸 謝 金	167056			358537				525593
租 税 公 課		277500	4000					281500
支 払 負 担 金	8170							8170
委 託 費		2859285	3338004					6197289
雑 費		2970		34255	1331544	55928		1424697
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								
臨 時 雇 賃 金								
退職給付費用								
福 利 厚 生 費								
会 議 費								
旅 費 交 通 費								
通 信 運 搬 費								
消 耗 什 器 備 品 費								
消 耗 品 費								
修 繕 費								

印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	314994	26194921	3395964	684845	6693661	100423	0	37384808
評価損益等調整前当期経常増減額	-314994	-13278325	-886764	-684845	-6693661	-100423	0	-21569012
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-314994	-3278325	-886764	-684845	-6693661	-100423	0	-21569012
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	-314994	-13278325	-886764	-684845	-6693661	-100423	0	-21569012
他会計振替額	314994	13278325	886764	684845	6693661	100423	0	21569012
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表
令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	119	0	119
特定資産受取利息					119		119
受取入金	0	0	0	0	74,000	0	74,000
正会員受取入金					74,000		74,000
受取会費	0	0	0	0	40,297,200	0	40,297,200
正会員受取会費					28,510,000		28,510,000
学生会員受取会費					1,787,200		1,787,200
賛助会員受取会費					10,000,000		10,000,000
事業収益	18,510,000	3,338,400	0	21,848,400	0	0	37,274,196
申込金事業収益							
参加費事業収益	16,320,000			16,320,000			16,320,000
懇親会参加費事業収益							
展示料事業収益	2,190,000			2,190,000			2,190,000
講演概要集 出版料事業収益							
セミナー参加費事業収益		3,338,400		3,338,400			3,338,400
会誌掲載料事業収益							6,922,200
会誌広告料事業収益							4,717,196
会誌頒布事業収益							1,267,200
編集料事業収益							2,509,200
受取補助金等	0	0	0	0	1,191,000	0	1,191,000
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金					1,191,000		1,191,000
受取民間補助金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	2,993,528	0	2,993,528
受取利息					7528		7528
雑収益					2,986,000		2,986,000
経常収益計	18,510,000	3,338,400	0	21,848,400	44,555,847	0	81,830,043
(2) 経常費用							
事業費	6,909,690	6,055,446	0	12,965,136	0	0	50,349,944
給料手当	731,224			731,224			10,374,464
臨時雇賃金	586,800	3,892,506		4,479,306			4,574,276
退職給付費用	30,170			30,170			794,894
福利厚生費	113,927			113,927			1,664,160
旅費交通費							24,570
通信運搬費	641,120			641,120			4,420,492
消耗什器備品費							198,000
消耗品費	38,361	1,081,140		1,119,501			1,187,406
印刷製本費	1,960,145			1,960,145			14,767,647
賃借料	153,391			153,391			170,434
諸謝金	230,000	1,015,300		1,245,300			1,770,893
租税公課	235,300	66,500		301,800			583,300
支払負担金	73,534			73,534			81,704
委託費	2,106,679			2,106,679			8,303,968
雑費	9,039			9,039			1,433,736
管理費	0	0	0	0	27,416,684	0	27,416,684
給料手当					9,562,499		9,562,499
臨時雇賃金							
退職給付費用					301,691		301,691
福利厚生費					1,482,375		1,482,375
会議費							
旅費交通費					6,780		6,780
通信運搬費					1,258,657		1,258,657
消耗什器備品費					198,590		198,590
消耗品費					501,242		501,242

修繕費					11,550		11,550
印刷製本費					692,169		692,169
光熱水料費					350,829		350,829
賃借料					7144,552		7144,552
保険料							
支払手数料					1,523,375		1,523,375
諸謝金					342,477		342,477
諸謝金					929,280		929,280
租税公課					45,050		45,050
委託費					2,294,848		2,294,848
雑費					770,720		770,720
経常費用計	6,909,690	6,055,446	0	12,965,136	27,416,684	0	77,766,628
評価損益等調整前 当期経常増減額	11,600,310	- 2,717,046	0	8,883,264	17,139,163	0	4,063,415
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	11,600,310	- 2,717,046	0	8,883,264	17,139,163	0	4,063,415
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期 一般正味財産増減額	11,600,310	- 2,717,046	0	8,883,264	17,139,163	0	4,063,415
他会計振替額	- 11,600,310	2,717,046	0	- 8,883,264	- 13,075,748	0	0
正味財産増減額	0	0	0	0	4,063,415	0	4,063,415
法人税、住民税及び事業税					70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	3,993,415	0	3,993,415
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	253,494,878	0	253,494,878
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	257,488,293	0	257,488,293
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	257,488,293	0	257,488,293

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	14,149,726	1,096,585	0	15,246,311
定期預金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	35,149,726	1,096,585	0	36,246,311

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	15,246,311	—	(15,246,311)	(15,246,311)
定期預金	21,000,000	(0)	(21,000,000)	—
合 計	36,246,311	(0)	(21,000,000)	(15,246,311)

4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額および残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金 東京しごと財団テレワーク助成金	東京都	0	1,191,000	1,191,000	0	
合 計		0	1,191,000	1,191,000	0	

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額およびその残高」に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	14,149,726	1,096,585	0	0	15,246,311

お 知 ら せ

財 産 目 録

令和3年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	4,002,276	
普通預金 三菱UFJ銀行本店	16,436,508	
〃 みずほ銀行本郷支店	7,504,991	
〃 りそな銀行本郷支店	24,091,570	
〃 三井住友銀行小石川支店	22,365,485	
〃 三井住友銀行小石川支店	33,343,632	
定期預金 三井住友銀行小石川支店	55,293,470	
〃 三菱UFJ信託銀行本店	60,143,804	
〃 みずほ銀行本郷支店	18,071,990	
振替口座 ゆうちょ銀行	7,135,259	
通常貯金 ゆうちょ銀行	989,537	
未収会費 令和3年度会費 213名, 3口	1,644,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	2,953,786	
前払金 令和4年1月分事務所家賃他	550,968	
立替金 ロボティクスシンポジウムWEBサーバー費用(JSME分)	36,300	
仮払金 IROS2020 Advanced Loan	2,800,000	
流動資産合計		257,363,576
2 固定資産		
(1) 特定資産		
退職給付引当資産(普通預金) 三菱UFJ銀行春日町支店	15,246,311	
定期預金 三菱UFJ銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		36,246,311
(2) その他固定資産		
電話加入権 2本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100
固定資産合計		38,962,411
資産合計		296,325,987
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 人材派遣費12月分	283,035	
〃 税理士顧問料(11, 12月分)	88,000	
〃 学会誌関係交通費他	33,258	
前受会費 会費前受分	21,374,000	
前受金 ロボット工学セミナー参加費(第139回)	669,500	
前受入会金 入会金前受分	2,000	
預り金 源泉所得税	311,326	
〃 住民税	75,800	
〃 社会保険料	630,004	
仮受金 誤入金分他	54,460	
未払法人税等 令和3年分法人都民税	70,000	
流動負債合計		23,591,383
2 固定負債		
退職給付引当金 退職給付分	15,246,311	
固定負債合計		15,246,311
負債合計		38,837,694
正味財産		257,488,293

監 査 報 告

私たち監事は、令和3年1月1日から令和3年12月31日までの第十一期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和4年2月17日
一般社団法人日本ロボット学会

監 事 松日樂信人 ㊟
監 事 浅田 稔 ㊟

【報告資料1】

令和4年度 事業計画

(自 令和4年1月1日 至 令和4年12月31日)

I. シンポジウム(継続事業1) [担当: 事業理事/ 学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー
 ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室(仮)」
 期日: 2022年7 or 8月(予定)
2. オープンフォーラム
 第40回学術講演会(東京大学 本郷キャンパス, 2022年9月5日(月)~9日(金))にて、オープンフォーラム(無料・一般公開)を企画予定。

II. 学会誌(継続事業2) [担当: 学会誌理事] (定款第4条2号)

従来どおり、学会誌全10号を、1月、3月、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月に刊行し、会員に配布する。なお、各号の特集テーマは以下を予定している。

- 第40巻1号 <人間中心の>未来情報社会再考
- 第40巻2号 海外でのロボティクス研究
- 第40巻3号 ロボットへの応用に向けたAIの品質
- 第40巻4号 索状ロボットの昨日・今日・明日(仮)
- 第40巻5号 マニピュレーションとロボットハンド(仮)
- 第40巻6号 福島ロボットテストフィールド(仮)
- 第40巻7号 デジタルツインと人・ロボット協調(仮)
- 第40巻8号 近年のベイズ推論研究とロボット工学への応用(仮)
- 第40巻9号 ソフトロボットと機械学習(仮)
- 第40巻10号 ロボットマニピュレーションのための視・触・近接覚センサ(仮)

第40巻1号で予定されている心理学関係の特集や、令和3年から論文のカテゴリーに追加された人文社会分野での論文募集などを通して、幅広くロボットに係わる話題を扱えるよう活動を進める。また、学生編集委員による記事執筆・ロボ学ウェブサイトとの連携なども継続的に実施していく。

令和2年度から始まった学術講演会とのレター同時投稿制度については、論文投稿数の増加に大きく貢献しているが、短期間に多くの論文が投稿されることから事務局および論文査読小委員会の負担が大きいため、ScholarOne上でのシステム改善などで負担軽減を検討する。また、第39巻9号分より開始している掲載決定論文の早期公開の制度の周知など、著者サービスの強化を通して投稿数の確保に努める。

広告に関しては、収入目標を例年と同様400万円と設定し、特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた取り組みを進める。

III. 欧文誌(継続事業3) [担当: 欧文誌理事] (定款第4条2号)

1. 欧文誌(Advanced Robotics)の発行計画

下記のとおり、2022年度においてはVol. 36を年24号発行することを計画している。

35/1-2	2021/Jan	Symbol Emergence in Robotics and Cognitive Systems I
35/3-4	Feb	Symbol Emergence in Robotics and Cognitive Systems I
35/5	Mar	Adaptive Motion of Animals and Machines
35/6	Mar	Regular Issue
35/7	Apr	Regular Issue
35/8	Apr	Regular Issue
35/9	May	Software and System Modeling for Robot system Integration
35/10	May	Regular Issue
35/11	Jun	Extra SI on Soft/Social/Systemic (3S) Robot Technologies for enhancing Quality of New Normal (QoNN) II
35/12	Jun	Regular Issue
35/13	Jul	Regular Issue
35/14	Jul	Regular Issue
35/15-16	Aug	Robot and Human Interactive Communication 2022
35/17	Sep	WRS
35/18	Sep	Regular Issue
35/19	Oct	WRS
35/20	Oct	Regular Issue
35/21	Nov	WRS
35/22	Nov	Regular Issue
35/23-24	Dec	Regular Issue

2. 編集体制

2022年度は、倉林大輔編集長の下、シニアエディター8名および7名の欧文誌委員会メンバーを中心に、査読小委員会、国際編集委員、アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら、欧文誌 Advanced Roboticsの国際的認知度向上、さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014年度から年間24号としたことで、一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られており、今後も採否決定までの期間90日を目標に出版を行っていく。Citation Indexの評価(インパクトファクタ)において、2018年度に1.104、2019年度1.247、2020年度には1.699と着実に向上している。2021年度には、Best Survey Paper Awardを新設したことで、引用件数の多い質の良いSurvey Paperも期待でき、インパクトファクタおよび国際的な認知度の更なる向上のため、一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、また引用の多い論文数件のOpen Access化等を実施する。さらに、国際貢献の意味も含め、海外の研究者をゲストエディタに含め国内外からの投稿数をさらに増大させていく。また、学会価値委員会等において完全Open Access化や有料化について、その是非も含めて継続して検討を進めていく。

4. 国際化に向けての活動

Best Paper Awardの授賞式の、国際会議 IROSでの開催を目指しているが、2020年、2021年がOn-line開催になってしまったため、IROSがOn-siteで開催される際には、授賞式を実現したいと考えている。またIROSで国際編集委員会を開催し、国際的認知度を高めるよう努力する。また国際貢献のために、ロボット学会の外国人会員の増加、日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく。また、国際委員会の活動に協力し、他学会との協力体制強化、パンフレットの国際会議場などでの配布、AR宣伝のためのポスターの制作と配布、ウェブの英語コンテンツ充実、等を実施する。

IV. 調査・研究(継続事業4) [担当: 企画・広報理事] (定款第4条3号)

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会、研究専門委員会による活動を行う。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
若手・学生のためのキャリアパス開拓研究専門委員会	横田 諭	2021年4月	I種
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020年4月	I種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅 久	2020年4月	I種
遊びとロボット研究専門委員会	望山 洋	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマンノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	荒田純平	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	李周 浩	2007年1月	II種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020年9月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020年1月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

(3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

(4) 研究協議会

学術講演会併催で研究協議会を開催し、各研究専門委員会の活動報告を行う。

V. 表彰(継続事業5) [担当:企画・広報理事] (定款第4条4号)

1. 表彰

第40回学術講演会において、学会誌論文賞、Advanced Robotics Paper Awards (Best Paper, Excellent Paper)、実用化技術賞、優秀研究・技術賞、優秀講演賞、若手講演賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム優秀研究・技術賞、ロボット活用社会貢献賞および功労賞の授与を行う。さらに、ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また、FA財団論文賞への候補論文の推薦など、学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、外部団体からの各賞の推薦依頼やその他の表彰についても、積極的に対応していく。

VI. 国際(継続事業6) [担当:国際理事] (定款第4条5号)

1. 学術講演会における国際セッション

第40回日本ロボット学会学術講演会(東京大学)において、国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。また、International Session Best Presentation Awardを選定する。

2. 国際会議関連

本会にかかわる下記国際会議の共催/協賛、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

・RO-MAN2022 日程:2022年8月29日~9月2日, 会場:ナポリ, イタリア

・IROS2022 日程:2022年10月23日~10月27日, 会場:京都, 日本

RO-MAN2022では、学際的研究を対象とした賞のスポンサーとなる(現在検討中)。

RO-MAN Steering Committeeには、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS Steering Committeeには、会長、国際担当理事、事務局長が参加する。

IROS2022ではBest Conference Paper Awardのスポンサーとなる。

IROS2022では、主に若手研究者向けのRSJ Tutorialを企画・実施する。また、企業(主に機器展示企業)と参加者のコラボレーションの機会のためのRSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch)を企画・実施する。

IROS2022では、IROS35周年記念オープンイベントの開催を予定しており、国際担当理事もWGに参加する。

3. その他

- 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
 - 対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
 - PARSU (Pacific-Asia Robotics Society Union) を介したアジア・オセアニア地域間での連携
 - IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
 - 英語による広報活動の展開(ウェブページ,パンフレット)
 - インド TRS との連携
- 国際委員会の位置づけと活動の見直し
- ロボット教育プログラムの確立とその標準化

VII. 学術講演会(その他事業1) [担当:学術講演会理事] (定款第4条1号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第40回学術講演会

期 日:2022年9月5日(月)~9日(金)
会 場:東京大学 本郷キャンパス
実行委員長:太田 順(東京大学)
プログラム委員長:岡田 慧(東京大学)

VIII. 講習会(その他事業2) [担当:事業理事] (定款第4条1号)

1. ロボット工学セミナー開講予定

- 第139回「ロボットの作り方~移動ロボットの基本とROSによるナビゲーション実習~」
期 日:2022年1月29日~30日, または2022年1月22日~23日
オーガナイザ:野口宏明(パナソニックアドバンステクノロジー),
ガルシア グスタボ(奈良先端科学技術大学院大学)
- 「深層強化学習によるロボット制御」
期 日:2022年5月頃 オーガナイザ:井尻善久(LINE株式会社)
- 「極限環境で活躍する水中ロボットの世界」
期 日:2022年(未定) オーガナイザ:西田祐也(九州工業大学)
- 「研究開発の実用化に必要なイノベーションマネジメント」
期 日:2022年未定 オーガナイザ:五十嵐広希(産業技術総合研究所)
- 「転移学習技術×ロボット応用」
期 日:2022年(未定) オーガナイザ:高橋佐和(株式会社アイシン)
- 「ロボット工学の微分幾何学基礎」
期 日:2022年7~8月頃 オーガナイザ:岩本憲泰(信州大学)
- 「土木・建設現場のロボット最前線」
期 日:2022年(未定) オーガナイザ:中村哲司(株式会社日立製作所)
- 「ロボットの作り方~移動ロボットの制御とROSによる動作計画実習~」
期 日:2023年1月(予定)
オーガナイザ:禹ハンウル(東京大学),片岡大哉(株式会社ティアフォー)

2. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。
国内共催事業(予定を含む):

- 第27回ロボティクスシンポジウム
期 日:2022年3月16日(水)~17日(木)
会 場:ハイブリッド(横浜/オンライン)
実行委員長:島 圭介(横浜国立大学)
- ロボカップジャパンオープン2022
期 日:未定,開催地:未定
- 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2022
期 日:未定,開催地:未定
- 第21回レスキューロボットコンテスト
期 日:未定,開催地:未定

IX. 法人処理 [担当:庶務理事]

1. 第12回定時総会

会 期:令和4年3月22日(予定)
会 場:全水道会館(予定:状況によりオンライン開催)

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月~3月)	委員長 (3月~12月予定)
会誌編集委員会	大川一也	前田雄介
欧文誌委員会	下田真吾	山本 江
事業計画委員会	島 圭介	横田 諭
国際委員会	ベンチャー ジェンチャン	中西 淳/ 田原健二
研究協議会	橋本浩一	橋本浩一
学術講演会実行委員会	山崎公俊 (39回)	太田 順 (40回)
表彰委員会	菅野重樹	菅野重樹
学会誌論文賞選考小委員会	橋本浩一	橋本浩一

Advanced Robotics Paper Awards 選考小委員会	菅野重樹	菅野重樹
実用化技術賞選考小委員会	菅野重樹	菅野重樹
研究奨励賞選考小委員会	橋本浩一	橋本浩一
功労賞選考小委員会	菅野重樹	菅野重樹
ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	橋本浩一	橋本浩一
学術講演会関連賞選考小委員会	橋本浩一	橋本浩一
ロボティクスシンポジウム関連賞選考小委員会	橋本浩一	橋本浩一
外部表彰選考小委員会	菅野重樹	菅野重樹
体制整備委員会	村上弘記	村上弘記
アドバイザーボード	村上弘記	村上弘記
コンプライアンス委員会	村上弘記	村上弘記
情報システム管理委員会	服部 誠	伊藤真平
学術講演会運営委員会	菅野重樹	菅野重樹
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	植木美和	小椋 優
学会価値委員会	村上弘記	村上弘記

3. 役員の選出

令和4年度の理事・監事を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

昨年に引き続き、理事会・各種委員会で、個人会員および賛助会員の増大を目指し、各種改善施策を進める。昨年はCOVID-19によりほとんどの事業がオンライン化された中、そこで得た知見を活かし、オンラインとのベストミックスを探りつつ事業の拡大に努める。

外部への働き掛けとして、産業貢献・異業種連携活動のほか、広報活動全般の強化を図る。特にHP・学会誌等のコンテンツ強化を引き続き推進し、学会の知名度向上を図る。また、非専門家が入会しやすい仕組みの構築や認知活動の継続、学生会員が会員継続しなくなる価値の創出と、若年層への啓発活動も継続実施する。さらに、ジェンダーバランスの改善、女性会員の増員に向けた活動を強化する。

6. 学会サービスの向上

学会価値委員会を中心に、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を、COVID-19をきっかけに変化した生活様式を考慮しつつ継続して推進し、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上を図る。

7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学生会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を引き続き実施していく。

8. 将来検討

広報活動のフィードバックを反映し、学会価値委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

【報告資料2】

令和4年度予算計画

収支予算書(損益ベース)令和4年1月1日~令和4年12月31日(公益事業)								
科 目	実施事業等会計						共通	小計(A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際		
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金金								
学生会員受取入金金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	14,740,000	2,509,000	0	0	0	0	17,249,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇談会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講演概要集 広告料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		7,660,000						7,660,000
会誌広告料事業収益		5,680,000						5,680,000
会誌頒布事業収益		1,400,000						1,400,000
編集料事業収益			2,509,000					2,509,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	14,740,000	2,509,000	0	0	0	0	17,249,000
(2) 経常費用								
事業費	0	25,704,055	5,171,000	2,228,000	6,765,350	6,624,000	0	46,492,605
給料手当		5,541,855			4,268,350			9,810,205
臨時雇賃金		24,000		145,000				169,000
退職給付費用		364,225			257,100			621,325
福利厚生費		1,124,975			794,100			1,919,075
旅費交通費		500,000		150,000		800,000		1,450,000
通信運搬費		3,450,000	22,000	48,000	28,000	24,000		3,572,000
消耗什器備品費								
消耗品費		271,000		2,000				273,000
印刷製本費		11,400,000		10,000	56,000			11,466,000
賃借料				90,000				90,000
諸謝金				999,000		1,000,000		1,999,000
租税公課		278,000	4,000					282,000
支払負担金			1,800,000	11,000				1,811,000
委託費		2,740,000	3,345,000	500,000	100,000			6,685,000
雑費		10,000		273,000	1,262,000	4,800,000		6,345,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								
旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								

消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	0	25,704,055	5,171,000	2,228,000	6,765,550	6,624,000	0	46,492,605
評価損益等調整前 当期経常増減額	0	-10,964,055	-2,662,000	-2,228,000	-6,765,550	-6,624,000	0	-29,243,605
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	0	-10,964,055	-2,662,000	-2,228,000	-6,765,550	-6,624,000	0	-29,243,605
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額		10,964,055	2,662,000	2,228,000	6,765,550	6,624,000		29,243,605
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民 税及び事業税								
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0

収支予算書(損益ベース)令和4年1月1日～令和4年12月31日(その他事業)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息							0
受取入金	0	0	0	0	100,000	0	100,000
正会員受取入金					100,000		100,000
学生会員受取入金					0		0
受取会費	0	0	0	0	40,938,000	0	40,938,000
正会員受取会費					28,840,000		28,840,000
学生会員受取会費					2,178,000		2,178,000
賛助会員受取会費					9,920,000		9,920,000
事業収益	29,250,000	7,270,000	0	36,520,000	0	0	53,790,000
申込金事業収益	100,000			100,000			100,000
参加費事業収益	20,790,000			20,790,000			20,790,000
懇親会参加費事業収益	4,500,000			4,500,000			4,500,000
展示料事業収益	3,710,000			3,710,000			3,710,000
講演料事業収益	150,000			150,000			150,000
セミナー参加費事業収益		7,270,000		7,270,000			7,270,000
会誌掲載料事業収益							7,660,000
会誌広告料事業収益							5,680,000
会誌頒布事業収益							1,400,000
編集料事業収益							2,500,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	12,180,000	0	12,180,000
受取利息					8,000		8,000
雑収益					12,172,000		12,172,000
経常収益計	29,250,000	7,270,000	0	36,520,000	53,218,000	0	106,987,000
(2) 経常費用							
事業費	22,231,965	4,920,000	0	27,151,965	0	0	73,644,570
給料手当	716,365			716,365			10,526,570

臨時雇賃金	2,000,000	120,000		2,120,000		2,289,000
退職給付費用	21,425			21,425		642,750
福利厚生費	66,175			66,175		1,985,250
旅費交通費	167,000	402,000		569,000		2,019,000
通信運搬費	100,000			100,000		3,672,000
消耗什器備品費						
消耗品費	400,000	3,050,000		3,450,000		3,723,000
印刷製本費	3,501,000			3,501,000		14,967,000
賃借料	2,700,000	200,000		2,900,000		2,990,000
諸謝金	200,000	1,018,000		1,218,000		3,217,000
租税公課	235,000	62,000		297,000		579,000
支払負担金	6,500,000	24,000		6,524,000		8,335,000
委託費	5,525,000	16,000		5,541,000		12,226,000
雑費	100,000	28,000		128,000		6,473,000
管理費	0	0	0	0	32,909,430	32,909,430
給料手当					9,372,430	9,372,430
臨時雇賃金					3,998,000	3,998,000
退職給付費用					214,250	214,250
福利厚生費					1,161,750	1,161,750
会議費						
旅費交通費					799,000	799,000
通信運搬費					900,000	900,000
消耗什器備品費					709,000	709,000
消耗品費					420,000	420,000
印刷製本費					751,000	751,000
光熱水料費					350,000	350,000
賃借料					7,142,000	7,142,000
保険料					6,000	6,000
支払手数料					1,522,000	1,522,000
諸会費					342,000	342,000
諸謝金					1,250,000	1,250,000
租税公課					45,000	45,000
委託費					2,230,000	2,230,000
雑費					1,697,000	1,697,000
経常費用計	22,231,965	4,920,000	0	27,151,965	32,909,430	106,554,000
評価損益等調整前 当期経常増減額	7,018,035	2,350,000	0	9,368,035	20,308,570	433,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	7,018,035	2,350,000	0	9,368,035	20,308,570	433,000
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-7,018,035	-2,350,000		-9,368,035	-19,875,570	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	433,000	433,000
法人税、住民 税及び事業税					70,000	70,000
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	363,000	363,000

【第3号議案】

令和4年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の10名を令和4年新役員として推挙したい。

任期	令和4年度役員		
	令和2年3月～ 令和4年3月	令和3年3月～ 令和5年3月	令和4年3月～ 令和6年3月
理事		村上弘記	
理事		菅野重樹	
理事		橋本浩一	
理事	植木美和	小椋 優	香月理絵
理事	服部 誠	伊藤真平	小野幸彦
理事	足立 勝	遠藤 玄	星野由紀子
理事	大川一也	前田雄介	菅原雄介
理事	下田真吾	山本 江	辻 俊明
理事	鳥 圭介	横田 諭	姜 山
理事			上田悦子
理事	山崎公俊*	太田 順	大野和則
理事	ベンチャー ジェンチャン	中西 淳	山野辺夏樹
理事		田原健二	
監事	松日楽信人	浅田 稔	松野文俊

※任期途中退任(令和3年3月～令和4年3月)

【第4号議案】

名誉会員推挙の内

日本ロボット学会、名誉会員選任規程第2項(会長経験者、および、その他、ロボットの学術または技術に関する権威者で、かつ本会に対し功績顕著な者)に従い、下記の2名を新しく名誉会員として推挙したい。

福田敏男 1948生 会員# 1265
澤 俊裕 1949生 会員#15452

なお、これに伴い、日本ロボット学会名誉会員は下記を含め20名(内9名故人)となる。

花房秀郎(故人) 1923生 会員# 73
藤井澄二(故人) 1920生 会員# 79
森 政弘 1927生 会員# 25
米本完二(故人) 1924生 会員# 488
梅谷陽二 1932生 会員# 41
稲葉清右衛門(故人) 1925生 会員# 1070
長谷川幸男(故人) 1927生 会員# 71
有本 卓 1936生 会員# 1078
江尻正員 1937生 会員# 77
三浦宏文(故人) 1938生 会員# 1023
木下源一郎(故人) 1941生 会員# 266
牧野 洋(故人) 1933生 会員# 43
吉川恒夫 1941生 会員# 311
内山 隆(故人) 1947生 会員# 506
金出武雄 1945生 会員# 292
原島文雄 1940生 会員# 2122
榊原伸介 1948生 会員# 4185
佐藤知正 1948生 会員# 100